

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200200		
法人名	株式会社宮城登米広域介護サービス		
事業所名	グループホーム憩いの里かがの		
所在地	宮城県登米市中田町石森字加賀野二丁目26番地2		
自己評価作成日	平成27年10月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活の場面に応じてBGMを活用し、時に楽しく、時に落ち着いた雰囲気作りやなつかしい唄、映像を用いての回想、思い出を共有した関係づくりに取り組んでいる。生活場面に於いては、食事の準備や片付け、洗濯ものたたみ等、できることを役割分担して行い、生活リハビリとして行っている。また、「かがのだより」や施設内に写真を掲示し、日々の生活の様子をご家族へお知らせし、会話のきっかけ作りをしている。

介護計画策定においては、月2回の会議や必要に応じて随時カンファレンスを開催している。またご家族へ状況報告し、生活暦やエピソードを伺う等、一緒に考えるようにしている。

地域との交流として防災協力員の方々、畑づくりのボランティアの方々や隣りの畑の方々とのあぜ道談義を重ね、道行く方々とのあいさつや子どもたちとの声がけ等を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは中田町加賀野の新興住宅地の一角にあり、散歩をする人が立ち寄り、子どもたちと挨拶を交わすなど地域と親しく結びついている。隣接する6軒と区長、民生委員が防災協力員として自動通報装置に登録されている。全職員で理念を見直し「一人ひとりの思いを生かせるような生活を支援します—いつも明るく笑顔で接します—」として、これを常に意識することで、職員は利用者が身近になり細かい表情にも気付くようになったと感じている。利用者が敷地内の畑作り、洗濯物干し、食事の準備など出来ることに自然に参加できるよう支援している。気になる行動の原因を検討し、音楽療法をとり入れるなど穏やかに過ごせるための取組をしている。市のグループホーム連絡協議会では管理者がリーダーを引き受けるなど行政などとの協力関係も築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH憩いの里かがの ）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初、職員全員で掲げた理念は、話し合いと反省を踏まえ、できていない部分を抽出し、4週間意識して行動し、その成果を発表する等共有を図った。また、会議の資料に掲げ、毎月再認識するようにしている。	昨年理念を見直し「一人ひとりの思いを生かせるような生活を支援します」として、毎月職員会議の資料に掲げ確認し合い、理念を生かした取組を行い、市内の連絡協議会で事例発表をした。利用者がより身近になったと職員は実感している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームに隣接している6軒の防災協力員の方々やホームの前の道ばたで遊ぶ子どもたちとの交流、毎日の犬の散歩時に立ち寄り下さる方がおり、交流を深めている。	隣接する住民、区長、民生委員に自動通報装置が繋がっている。敷地内の畑作りには隣人の協力がある。ホームの敬老会には近隣住民を招待した。区長の提案でミニデイ利用者方との交流会を行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年7月の早朝、「匿って下さい。」と駆け込んできた女性があり、担当介護支援専門員や地域包括支援センターの方と連携して対応し、現在通所を利用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常的な活動や入居者の状況を報告し、それに対する意見を積極的に頂くようにしている。	2ヶ月に1回市職員、地域包括職員、区長、民生員、利用者、家族の参加で開催している。事業報告や外部評価について報告し、全員が発言している。敷地内の電柱の支線の撤去や、外部評価についてなど検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のみならず、適宜報告および相談を行うと共に「かがのだより」等で、日頃の活動状況をお知らせしている。	市職員は運営推進会議に参加し、意見交流、情報提供などしている。困難事例についても地域包括、区長、民生委員とともに相談し対応した。市内のグループホーム連絡協議会を市の援助により立ち上げ運営に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉づかいについて、スピーチロック等の不適切な対応等が挙げられ、会議の際に研修会や勉強会を行い、取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて研修を年1回実施し、スピーチロックなど再確認した。施錠は夜6時から朝7時までとし、近隣住民の見守り協力で自由に外出できるように配慮している。不安の原因を検討し落ち着ける音楽を流すなど工夫し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、日頃から言葉づかいや認知症の中核症状や周辺症状について話し合い、会議等で勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時のオリエンテーション等に概要を伝えているが、現時点では対象者が無く、今後学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約および解約、改訂等時には、懇切丁寧を旨とし、文書にて理解納得して頂く様に説明し、同意を頂いている。また、その後においても、不安や疑問等について説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、入居者およびその家族に輪番で出席していただいている。また「かがのだより」や玄関等へ写真を掲示して活動状況をお知らせし、話題提供を行っている。	毎月家族が訪問して支払いをすることにしており、その際状況報告し意見交流している。家族は話を聞いてくれると評価している。運営推進会議には輪番で参加し、全員発言の機会がある。玄関等に外部の相談機関を表示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議において、入居者の状況を確認すると共にサービス提供体制や手順等の話し合いを行っている。毎回ではないが、本社から統括事業部部長が会議に出席している。	毎月2回の職員会議でカンファレンス、運営についての意見交換をしている。年2回の人事考課の際に面談し、自己評価を中心に意見交換をしている。寒い時の足浴などの提案が活かされている。資格取得の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を実施し、その結果を管理者から各職員へフィードバックしている。その結果によって、賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全職員対象の社内研修会を実施している。また、宮城県介護研修センター等への派遣や事業所内での研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	登米市介護保険事業者連絡協議会が発足、GH等の入所施設部会での情報交換、また研修会へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅時の生活状況や家族関係、現在抱えている問題や不安、こだわり等を日常の会話や表情、行動を理解し、どのような生活を望んでいるのかを把握し、その人らしい生活に近づけるため一緒に考えられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在困っていることや不安なこと、まだどのような関係でどんな生活を過ごしてもらいたいのかを共に話し合い、協力して一緒に考えるという関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、心身の状況や生活状況、家族状況を含めて話し合い、本人にとって必要な生活環境や他のケアサービスについて、担当ケアマネージャーとの情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事等、本人が得意としていること、できることやできる可能性があることを一緒に行う中で、可能性を追求している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状況や生活状況を伝え、家族としてできる役割、関わりを一緒に考える様になっている。また、「かがのだよ」や写真の掲示等で、実際の生活の様をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	働きかけ不足のためか、外出を好まない方がほとんどであり、今後の課題として捉えている。	親戚や婦人会の友達の来訪がある。散髪は近くの床屋に出かけて地域交流している。馴染みの平筒沼への散歩やスーパーへの買い物に出かけている。美容院、墓参り、外泊などは家族と共に外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	しりとりやことわざ、懐かしい歌や映像をツールとして、思い出を共有して語り合える機会を持ち、また、難聴や集中力低下からの聞き違いや勘違いする場面を見逃さず、代弁修正を行う配慮を行い、関係保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族から、現在も畑の耕耘や野菜作りの手伝いを頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の性格やこだわり、入居者間の関係を含め、何気ない言葉や表情、行動も含めて、思いやこだわりを把握し、カンファレンス等で共有している。	職員は利用者1~2人を担当し、ケアプランを毎月チェックし、会議に情報提供している。家族からの情報や、様々な場面で、利用者の話を聞き、他のスタッフの対応を観察したり、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活行動、会話の内容等を家族へ伝えることで得られる情報、また家族の知らない情報もあり、利用料の支払時等を家族とできる限り情報交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態、食事や水分量、また排泄状況を確認すると共に、表情や行動を観察しながら、できることを模索し、やってみては評価するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者や担当職員を中心にアセスメントを行い、加えご家族の意向やエピソードを聞きながら、その人を捉え、全職員でのカンファレンス会議を経て計画書を作成している。	担当職員は計画作成担当者と相談し毎月の職員会議に情報提供してカンファレンスを行い、介護計画は年2回の見直しをしている。家族が毎月訪問した際に説明し要望を聞き、計画に反映している。家族は詳しく説明してくれ要望を受け止めてくれると評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の記録に加えて、ケアプランチェック表を元に各担当が毎月の状況を計画作成担当者と共に確認し、継続や見直しを全体の会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課や業務の手順にとらわれず、個々の希望や心の動きに応じて個別の対応ができ、周りがそれをフォローできる体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、災害時の防災協力員と畑作りのボランティアの方との親交、また毎日、犬の散歩途中で立ち寄り、犬とのふれあう機会や、施設前を通る方とのあいさつや、公道で遊ぶ子どもたちが声掛けを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院支援の入居者が増えており、遠方の病院への支援が困難で、近隣の医療機関に変更していただき、直接医師と情報交換ができるようにしている。	かかりつけ医の受診は家族が付添、結果について情報を共有している。職員同行の際も家族に情報を提供している。在宅診療の医師を、かかりつけ医としている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	登米市訪問看護ステーションと契約、毎週水曜日の午前に来所している。その際、受診時の情報やその経過、また医療面に関する相談助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医師への情報提供、また退院時のカンファレンスに出席している。また、その後の経過について家族と情報を共有しながら医療機関との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、施設の看護介護状況および設備状況について説明し、重度化した場合に施設でできることを説明している。	指針は準備しているが家族などへの説明の時期を検討している。看取りの実績はまだ無いが職員の緊急時対応の研修を行う予定である。訪問看護ステーションと契約をした。	職員が緊急時においても自信をもって対応できるように、先進的な取組の研修なども含めて緊急時、終末期対応の研修を重ねることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の確認作業と連絡方法等については、周知しているが、応急手当や初期対応については不安があり、今後の課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の8名の方に防災協力員として了承を受け、自動通報装置に登録、火災時は自動で連絡する体制になっている。昨年8月に訓練を実施している。	災害対応マニュアルを準備し年2回夜間想定も含め住民参加のもと訓練している。業者がスプリンクラーや防災設備の点検を年2回実施し、職員は使用方法を確認している。3日分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の行動心理症状の理解やコミュニケーション方法等の研修を行い、理念に沿ったケアの実現を目指している。	プライバシー保護の研修は年1回実施しており、プライドを守るケアや声掛けに配慮している。呼び名は〇〇さんと呼び、男性は苗字で女性は下の名前で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から、思いやこだわりを知ることがあり、個々の性格に応じてすぐに行動に移したり、内向的な方には一緒に決めたり対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険や健康を損なわない限り、できるだけ柔軟に対応している。一人ひとりの性格や趣向を把握し、場面毎に働きかけを行い、言葉や表情等から判断して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等の衣類を一緒に選んだり、鏡の前で整容の手伝いをしている。また、髪型もこだわりや生活習慣に応じて理美容院を定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモやタマネギ等の皮むき、味付けや盛りつけ、テーブル拭き等の準備、食器洗い、片付け等、できる所をそれぞれ役割分担して行っている。	メニューは栄養士が作り、職員が交代で調理している。利用者は皮むきなど調理や後片付けに参加している。挨拶担当の利用者の声掛けで職員も一緒に和やかに食事している。外食は本人の希望に合わせ職員と1対1で出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当社デイサービスの栄養士の献立に従い、個々に応じた調理をしている。また、1日の水分量を把握すると共に嗜好に応じてコーヒーや茶等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや口腔清拭、義歯の洗浄を個々の能力に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。	日中はトイレへの誘導で自立できるよう支援している。夜間は安眠を重視し、リハパンとパット使用など工夫している。便秘対策は薬に頼らず南瓜のいとこ煮など食事で工夫し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期に応じて、できる限り下剤に頼らない自然排便を目指し、医師へ相談を行い、食物繊維や調理法、水分量の把握または運動する機会を持つようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入浴日を設定しているが、気分に応じた時間帯に入浴したり、入浴日を変更するなど、柔軟な対応をしている。	週3回の入浴を基本にしている。お湯はその都度換えて、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤も楽しんでいる。浴室には介助用の手すりや椅子が備わっている。「足を洗いますよ」などの声掛けで全員心地よい入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活が不規則にならない限り、気分に応じて自室や小上がりの畳等で休息したり、食事時間や入浴時間をずらしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容や副作用の周知を図り、一包化による服薬ミスリスクを避けている。また、生活パターン、覚醒不良等の把握に努め、状況を主治医へ報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や食事の準備、洗濯物干しやたたみ等能力に応じて行っている。また、唱歌や歌謡曲等、昔の映像を流し、楽しんでいただくと共に楽しみにしていただけるよう働き掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩は、随時行っている。外出については、チューリップまつりや菖蒲まつり等、近隣の催しもの見学に出掛けている。	近隣に見守られながら、公園への散歩の折など地域交流している。おやつなどの買い物にスーパーに出かけている。季節の行楽に年間計画を立て車椅子の方も一緒に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて、また家族の了解の上、少額の現金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には、その都度対応している。手紙については、習慣がない方がほとんどで、今後は年賀状の作成等、支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯によってオルゴールやオカリナ等の季節の音楽等のBGMを流し、ゆったりと過ごせる様にしている。また、季節感ある装飾を施したり、活動写真を掲示したり、テレビに映して活動を振り返ったりしている。	共用空間は天井が吹き抜けで明るく、掃除も行き届いている。調理台は四方から使用でき作業しやすい。秋らしいタペストリーが飾られ、小上がりには畳が敷かれており、床の間に高砂の掛け軸が掛っている。廊下には所どころにソファがあり、寛ぐ空間になっている。便所の表示も工夫されており、時計も見易い。温・湿度も適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室で過ごす方がほとんどで、それぞれ居場所ができています。また、時間毎に居場所を変えている方もおります。今後、さらに居心地の良い環境、雰囲気作りに工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を持ち込んだり、家族との写真を飾ったりしている。ほとんどの方が、昼寝以外は共同生活室で過ごされている。	居室には電動ベット、洗面台、整理たんすが備わっており冷暖房は職員が管理している。テレビや馴染みの家具、洋服掛けなど好みの品を持ち込み家族の写真などが飾られ、その方らしい工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解るようにサインを取り付けたり、一息付けるように廊下にベンチを設置している。一人ひとりの可能性を引き出すように、今後も生活観察力を高めていきたい。		